

平成16年4月25日

第1号

# 素流協 News

平成16年4月25日発行・発行所 岩手県素材流通協同組合 盛岡市菜園1丁目3-6/電話019(652)7227/FAX019(652)7227

## 「素流協ニュース」の

## 発刊に当たって

岩手県素材流通協同組合

理事長 下山裕司



森林整備の一環としての間伐作業の過程で産出される小径材等の需要開発と円滑な流通を促進することとであります。

岩手県素材流通協同組合（以後、「素流協」と略称する）は、昨年（平成十五年）の四月、岩手県下において素材生産活動を展開している事業者を構成員として設立された協同組合組織であります。素流協が事業を開始してから満一年を経過いたしました。

素流協の設立目的は、個々の素材生産事業者が県下で生産する素材の円滑な流通を図ることにあり、特に素材生産事業において必ず発生する小径材・短尺材・低質材や

素流協の初年度の主な事業は、宮古市および大船渡市に立地する合板製造企業・セイホクグループの工場に対して素材を計画的・安定的に供給することとあります。具体的に言いますと、スギ・カラマツ・アカマツの小径材・短尺材を主体とする素材を三千㎡/月、年間三万六千㎡を供給するという事業計画をたてたところとあります。

一方、平成十五年度の素材供給実績は、約二万六千五百㎡にとどまり、計画に対して七〇%強という結果となりました。この計画と

実行の乖離についての原因は幾つか考えられますが、いずれにいたしましても平成十五年度の事業結果をしっかりと分析して次年度の事業計画の作成と事業実行に反映させる必要があります。

どのような事業においても計画と実行がしっかりと整合していることが大切であり、この計画と実行における整合性を確保するために重要な役割を果たすのが「情報」であります。素流協の事業活動を計画的・安定的に展開するためには、事業に関する各種の情報を適時適切に収集して分析し、それを円滑に流通させることが大切であります。具体的には、「素流協組合員」―「素流協」―「素材需要者（合板工場等）」の間に於ける素材の需要・供給に関する各種情報が関係者に的確かつ円滑に疎通する仕組みが必要であります。そして、これらの必要な情報についての受信および発信の業務を効率的に実行し、素流協の事業を進展させることが素流協に課せ

られた重要な役割であろうと考え  
るのであります。必要な情報を円  
滑に流通させる仕組みは、文書、  
電話、ファックス、メール等々い  
ろいろありますが、素流協組合員  
が多数にわたることやインターネッ  
トの利用についてはもう一つ徹底  
していない現状では、定期的な刊

行物の様式を活用するのが現時点  
では最も効果的なのではないかと  
考えました。  
そこで平成十六年四月、月刊情  
報紙『素流協NEWS(ニュース)』  
を創刊することにいたしました。  
この『素流協ニュース』が組合員  
の皆様をはじめ関係者にとって役

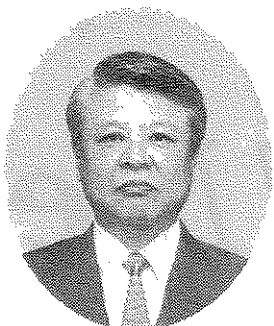
に立つ情報源としての機能を果た  
すことができますよう、素流協と  
いたしましては、常に研鑽を重ね  
て情報紙としての質の向上を図っ  
て参る所存であります。  
なお、組合員、素材需要者およ  
び関係者の皆様におかれましても  
情報の受け手であると同時に情報

の発信者でもあるわけであります。  
創刊『素流協ニュース』が皆様  
にとってお役に立つ情報紙として  
成長してまいりますようにご指導・  
ご協力をいただきますことをお願  
い申し上げます『素流協ニュー  
ス』創刊に当たってのご挨拶とい  
たします。

## 素流協への期待

岩手県農林水産部

林務担当技監 千田 壽 光



組合の業績を広く紹介する素流協  
ニュースを発刊される運びとなり  
ましたことを心からお喜び申し上  
げます。

本県の森林は、県土の約八割を  
占めておりますが、その蓄積も今  
や二億立方メートルを超え、かつ  
年間五百万立方メートルの増加を  
続けています。また、この森林は、  
水源かん養機能をはじめとする公  
益的機能においても年額二兆六千

億円と評価されるなど、豊かな県  
民生活を営んでいく上で欠かすこ  
とのできないものとなっておりま  
す。しかしながらその一方では、  
丸太価格の落ち込みなどにより、  
本県の林業生産活動は、素材生産  
量が昭和五十五年のピーク時の約  
五割に低下するなど、かつてない  
ほど大きく停滞しています。

このような中であって、適切な  
森林整備を進め、森林資源の循環  
利用と林業生産活動の活性化を図  
るためには、川上から川下に至る  
一連の生産流通の中で、森林・林  
業の改革を進めていくことが必要  
であり、県としても県民の財産と  
もいえる森林を守り育てるため、

このような視点から様々な対策を  
取っているところです。また、県  
産材の需要拡大を図るといっても  
安定的な供給があつてこそであり、  
関係業界におかれましては、かつ  
て山村が元気な頃は、多少の障害  
はあつても必ずどこかでそれを乗  
り越えてきた強固な組織が、今は  
何処も大変な状況となつている中  
ではあります。このような状況

の打破に向けてまして、それぞれの  
立場から具体的な行動を起こすこ  
とが肝要であると考えます。苦し  
いときにはとかく解決策を他に求  
めがちになりますが、解決策は業  
界の内部のどこかにもあると思ひ  
ます。このような時だからこそ、

自主性と創意工夫を凝らした取り組みで、「受身」ではなく、「攻め」の姿勢に立った戦略を展開することが岩手の林業が厳しい産地間競争の中で生き残っていくことにつながるのではないかと思います。このような背景のもとに、素流協が立ち上がったわけですが、このことは素流協の設立趣意書において、「地域に所在して林業に従事する者は、現在の社会・経済状況を与件と捉まえながら自ら工夫を凝らして対処策を考え、実行し、能動的な林業生産活動を継続させることが大切であります。」とされており、この理念のもとに、県下の素材生産業を営む団体や事業体の皆様が連携して安定的な素材の供給に取り組んでおられることは時宜を得たものであると思っております。

また、この三月には、県内林業団体の皆様によりまして、県産材の利用を確実に推進するため、産地証明を行う岩手県産材認証推進協議会が設立されましたが、その

根本にあるのはやはり山の現場であり、幾多の世代によって育まれてきた本県の森林資源の循環利用を進めようとするこのシステムを、着実に、かつ速やかに根付かせるためにも素流協の会員の皆様の積極的な参加と協力が必要であると思っております。

森林を適切に管理するとともに、木材を有効に活用し森林資源の循環利用を推進することは、地球温暖化防止の観点から注目されてお

り、また、森林・林業の再生を図る上でも大変重要であります。素流協が、いわゆる木材の新流通に全国に先駆けて取り組まれたことは大変意義深いことであると思っております。この取り組みは、県産材の安定供給をもたらす画期的なものであり、県としても県産材の需要拡大に向けた新たな突破口となるものと大いに期待しております。

素流協を立ち上げた理念のもと、

不断の向上を続けていかれることが、ピンチをチャンスに変え得るものであり、さらにこのネットワークを広げ、森林所有者へのアプローチや利用者のニーズに対応した安定供給を進めていただければ、健全な森林の育成にも大きな貢献をなし、林業のみならず地域の振興にも大きく寄与されるものと思っております。

## 素流協ニュース

### 発行を祝って

ホクヨープライウッド(株)

監査役 岡崎 勇

素流協ニュース紙発行を、お祝い申し上げます。

早いもので素流協設立から一カ年が経過しますが、事業活動は、この短期間にも拘らず順調にその成果を発揮され、着実なる事業基



盤を確立されていることに衷心より敬意を表するものであります。

県産材(針葉樹材)を合板用原料として利用し始めたのは、平成七年からであり、紆余曲折のなか、今日に至っております。間伐材有効活用は時代の要請でもあり、合板業界での消費がほぼ定着化したことは大きな意義があったものと思っております。生産者、加工業者、そして消費者が一体となり、需要拡大を可能とする更なる展開を期待するものであります。

さて、製造加工を担う立場から、県産材（国内材）使用について問題を提起申し上げ、一考に供していただきたいと思います。

ひとつは安定供給についてであります。合板工場で消費する原料は、事業規模の差はあれ、大量の材を消費します。いずれも一環した製造ラインで生産され、投入される原材料も安定された量と質が要求されるのは当然のことであり

ます。遺憾ながら現状は、各月ごとの入荷量に差があります。森林所有者、素材生産者、流通業者による安定供給事業への取り組みを進めていただきたいと思います。次に価格の問題があります。その都度ケースバイケースで決定する以外、良き解決方法を見い出せない。

立木代金、生産費、流通経費等、どれも除外出来ぬ重要な価格構成要因ではあるが、、、外材（輸入原木）が主要原料である現実は無視出来ず、市場価格そのものも、外材価格主導で決定づけられてお

り、その影響から免れることはできません。

徹底したコスト管理と合理化で、森林経営基盤を確立させる努力を惜しまぬことを肝要であります。

さらには中国が新興勢力として進出していることは承知の通りであります。まさにグローバル化した木材であり、国際商品として需要拡大が見込まれる中、県産材（国産材）のポジションが見直されてくるのは確実であり、その為

にも早急に県内森林所有者がかかえる諸問題を一つ一つ解決されるべく、素流協の存在活動が重要視されるものと考えます。

今、業界は再生出来る唯一の資源としての木材を共に見直し、資源の有効活用と、資源の再生に取り組んでおります。つまり再生可能な木材として広葉樹材から、植林木材、早生樹材である針葉樹材へ転換を図っております。

木材が保持する特徴を最大限活

かした製品開発として、強度を保持し、狂いが無い、軽い商品を製造し、その原料として、県産材（カラマツ、アカマツ、スギ）を積極的に利用すべく、心がけています。

設立一カ年を迎え、更なる順調な歩みを期待するものであります。会員皆様のご活躍を心より祈願致します。

▽規格  
・曲がりⅡ二〇%未満  
・節の大きさⅡ節ばかまを入れ一〇cmまで  
・節の数Ⅱ二個まで  
となっておりま。出荷者はこの規格を厳守して下さい。

本プライウッド(株)に対する出荷は、不適材が混入されないという前提のもとに、信用取引となっております。

規格外丸太の混入は、この信用取引の根本を当方が一方的に破ることを意味します。今後は規格どおりの丸太だけ出荷されるよう特段のご配慮をお願いします。

### 今月のトピックス

#### 『素流協より』

素流協の組合員について、創立時から現在までの状況をお知らせします。

▽平成十五年四月一日（創立時）

内 訳  
森林組合連合会 一名  
協同組合連合会 一名  
協 同 組 合 二名  
株 式 会 社 五名  
有 限 会 社 十一名  
個 人 四名

▽平成十五年七月三十一日現在

新加入 二十六名  
株 式 会 社 一名  
個 人 一名

▽平成十五年九月三十日現在

新加入 二十七名  
個 人 一名

▽平成十六年四月一日現在

新加入 二十八名  
有 限 会 社 一名

#### 『工場から』

アカマツ材の不適材混入について、厳しいクレームがありました。その内容は「曲がり材」、「節の大きさ」、「節の数」の三点です。

今なぜ、国産材利用のための需要喚起が必要なのか。このことについて、わが国の森林の現状と木材需給構造の変化、世界の森林の現状・動向を概観し、そこからわが国がもっとも国産材を利用しなければならぬ必然性を浮かび上がらせてみたいと考えます。

◎わが国の森林の現状と木材需給構造の変化

(1) わが国の森林の現状

わが国の人工林一千万haの八割は、未だ四十五年生以下の主伐時期に達していない森林であります。これら森林の蓄積は、年間七千万m<sup>3</sup>ずつ増加するなど森林が年々成熟しておりますとともに、四十六年生以上の伐採・利用できる人工林も二割に達しております。しかしながら、わが国林業は、外材との競争が一層激しくなる中で木材価格の低迷と経営コストの増大により採算性が悪化しており、林業生産活動の停滞によってわが国の

森林は、人工林を中心に資源として適切に利用されないばかりか、健全な森林を育成する上で必要不可欠な間伐作業が適時適切に行われなかったり、伐採後に植林が必要な場合でもそれが行われなかったりするなど森林の管理水準の低下が危惧されております。

ヒロシの独白

今なぜ、  
国産材利用のための  
需要喚起が必要なのか？



(その一)

①昭和三十年(一九五五年)の木材需要量は、六千五百万m<sup>3</sup>でしたが、昭和四十五年(一九七〇年)に一億m<sup>3</sup>に達し、昭和五十六年(一九八一年)以降六年間は九千万m<sup>3</sup>台に落ち込みましたが、その後は一億m<sup>3</sup>台に回復してほぼ横ばいで推移しております。

その後、為替の変動相場制への移行、プラザ合意に伴う円高の進行などもあり、国内で生産される木材に比べ価格とロット面で有利な外材の割合が次第に増加し、昭和三十年(一九五五年)に九四・五%だった用材自給率は、平成十四年(二〇〇二年)には一八・二%まで低下しております。

このように、わが国の木材供給は、外材に依存する構造が定着したためであります。

後に述べますが、世界の森林が過剰な利用によって減少・劣化しておりますが、わが国の森林については、資源として利用されないことによって適切な森林の整備が行われず、世界の森林とは別な形で森林が劣化する恐れがあるといえます。

平成十年(一九九八年)から再び一億m<sup>3</sup>を割り込んで、平成十四年(二〇〇二年)には八千八百万m<sup>3</sup>となっております。

(2) 木材需給構造の変化

②国産材の供給力については、昭和三十五年から三十六年(一九六六年)にかけて木材価格が高騰したことから、国有林材の増産、外材輸入の拡大が図られました。

④林業就業者は、平成十二年(二〇〇〇年)の国勢調査によると、六万七千人で五年前より約二割減少し、かつ、四人に一人が六十五歳以上となるなど高齢化が進んでおります。

### 平成15年度販売実績

ホクヨープライウッド(株)、北日本プライウッド(株)の2社に出荷した、合板用丸太の平成15年度販売実績は下表のとおりです。

3月は出荷が好調で、初めて月間の出荷実績が4,000m<sup>3</sup>を超えました。

項目 樹種	長 級 m	径 級 cm	販 売 先		計 m <sup>3</sup>	出 荷 割 合	
			ホクヨー プライ ウッド(株)	北日本 プライ ウッド(株)		樹種毎 %	長級毎 %
スギ	1.9	14上	4,737	2,824	7,561		63.5
	4.0	14上	3,052	1,330	4,355		36.5
	計		7,762	4,154	11,916	45.2	100.0
カラマツ	1.9	14上	8,377	1,398	9,775		98.3
	4.0	14上	107	66	173		1.7
	計		8,484	1,464	9,948	37.8	100.0
アカマツ	1.9	14上	2,864	1,034	3,898		92.3
	4.0	14上	234	89	323		7.7
	計		3,098	1,123	4,221	16.0	100.0
サワグルミ	1.9	20上	264	-	265	1.0	100.0
合 計			19,609	6,741	26,350	100.0	100.0

### 編集後記

▽ようようというか、予定通りというか、「素流協ニュース」が創刊の運びとなった。冒頭記事「素流協ニュースの発刊に当たって」に述べられているように、当小紙が会員各位および関係者の皆様にとって役に立つ情報を適時適切に発信することが期待されている。この期待に応えるべく編集子としても粉骨砕身努めるつもりである。

▽「ヒロシの独白」欄では、「今なぜ、国産材利用のための需要喚起が必要なのか」を今回から四回にわたって掲載されることになっている。著者はかなり癖のある独特の意見の持ち主である。読者は、著者の毒気に当たらぬように用心が肝心だ。

▽当小紙が創刊号ということで県の農林水産部・林務担当技監の千田壽光氏とホクヨープライウッド株式会社の監査役岡崎勇氏から懇切丁寧なご祝辞を賜った。誠にありがとうございます。ご期待に沿えますよう素流協の役員一同心を新たに精進する覚悟であります。どうぞよろしくご指導を賜りますようお願い致します。